

協議会ニュース 113号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2007. 7



サギソウ

緑の湿原に白いサギソウ。その姿は「咲く」より「飛ぶ」が似合う。

イラスト・文…名古屋支部 渡辺敦

全国野鳥保護のつとめ記念式典

ふるさと親子自然観察会

亀崎蒲池海岸の生き物観察会

野の花に集まる虫たちと遊ぼう

ふるさと親子自然観察会に参加して

知多支部春の研修旅行

会員のページ(加子母ヒノキに会いに行く)

観察会あれこれ 自然のしくみ・その4

自然セレクション 100

尾張本宮山・ヒツバタゴ自生地

事務局だより

行事予定・編集部

鬼頭弘P2

森田博文P3

樋口祐子P4

櫻井玲子P5

小川展弘P6

長谷川安子.....P8

奥居達朗P9

長谷川洋二.....p10

.....P11

.....p12

鬼崎蒲池海岸の生き物観察会

愛知県自然観察指導員連絡協議会が主催し知多自然観察会と常滑市生涯学習の「わくわく探検隊」との合同観察会は、5月13日(日)に 常滑市蒲池海岸で行なわれました。

この日は「中潮」といって大潮と小潮の間に当たり、潮の引きはそれほどよくはありません。しかも、遠路電車を使って参加する人を待って、観察採集が始まったのは、すでに潮が満ちはじめからでした。

それにしては、例年に比べて大変大きな収穫を上げることができ、しかも中身の濃い観察会となりました。その理由は、次のようです。

まず第一に 前夜北西の強い風が吹き、強い波でこの蒲池の砂浜に多くの生き物たちが打ち上げられたことです。アナアオサ、ワカメ、アマモ、サルボウ、ツメタガイとその卵であるスナヂャワン、アオリイカの卵、アカニシの卵であるナギナタホウズキなど労少なくして採取することができました。この中に、体長 40cm もある最大級のアメフラシが幾つもありました。すでに死んでいたもので、体内から薄っぺらな貝殻を取り出し、アメフラシが巻貝の一種であることが証明できました。サルボウやワカメを沢山採集して持ち帰る人もいました。目や鼻、手による観察に留まらず、舌や胃まで動員するのは大変いいことです。

第二に 参加者の数です。合計 58 名の参加者、116 の眼はやはり多くの生き物を見つけることができました。

第三に 参加者の採集能力です。参加してくれた数名の高校生諸君は、クジメ、タケノコメバル、ボラの子など 7 種の魚を捕獲してくれました。指導員も顔負けです。

そして何よりすばらしかったのは参加者

ふるさと親子自然観察会

知多支部 森田 博文(上写真筆者)



の皆さんの高い意欲です。ワレカラやヨコエビのような小さな生き物に気づき、指導員にたずねて下さったのには関心しました。さらに、3人の指導員による分かち合いは少し長めになりましたが、熱心な参加態度には、指導員一同頭が下がる思いでした。

参加者の皆さん、すばらしい観察会にして頂きありがとうございました。

ふるさと親子自然観察会（尾張）

野の花に集まる虫たちと遊ぼう

尾張支部 樋口祐子

日時 平成19年5月13日(日) 9:30~12:00
曇り後晴れ
場所 森林公園（尾張旭市） 植物園

下見の日は、午後から行ったのですが朝から土砂降りの雨のなかで、あまり生き物にお目にかかれず残念でした。観察会当日は朝、カーテンから外をのぞくとちょっと曇りでしたが、まあまあの天気で一安心。ほっとして出かけました。

PRは中日新聞近郊版「アイ・ラブ自然」の中の鳥・虫・花コーナーと尾張自然観察会のホームページ・作成したチラシです。中日新聞による参加が2組6人、ホームページによる参加が1組2人でした。

参加者8人と指導員4人で展示館前の野草園の植物に付いている名札を見ながら出発しました。薄紫色のムラサキケマンの花が目につきました。ムラサキケマンは実に触れると鞘がはじけて種を飛ばします。みんなで大はしゃぎしながら、種を思いつき飛ばして遊びました。

「郷土の森」の看板の立っている道を、左手にシマジタムラソウの群生地を見ながら進みます。この道の主人公は何といってもチャタテムシです。ひと固まりの群に指を触れるとパァーと放射状に散っていきます。参加者の子供たちがかわるがわるさわって歓声を上げていました。

森林公園は途中途中の木に名前と簡単な説明の表示があるので、「これ、何の木だろう」と思うことがあまりないので助かりますね。森林公園にはアオモジの木がよく見られます。大きな木もありますが、1m~2m位の小さな木も多いです。

アオモジの葉のにおいを参加者にかいでもらいました。私がよく行く春日井市少年自然の家にはないので、アオモジはレモンの味がして好きな香りです。

観察湿地Aではイシモチソウの花が2つ3つ咲いていました。白い花です。葉のネバネバした腺毛に小さな力のような虫がつかまっていた。参加者に名前の由来を説明しましたがとても納得の様子でした。ウンヌケやゴウソ・ヒメゴウソも元気に顔を見せていました。鳥たちにもぎやかです。シジューカラやヤマガラがかわるがわる美しい声を湿地に響かせていました。

シロシタホタルガの幼虫がサワフタギの木いっぱいに発生していました。毎年発生しているそうです。でもシロシタホタルガの幼虫は大量に発生していてもそんなに気持ち悪くありません。結構美しい模様です。

しばらく行くと、ちょっとした広場に出ました。向こうの方に背の高い木があって大型の紫色の花をつけています。キリの木です。かつては女の子が誕生すると植え、結婚する時にたんすを作って持たせたという木です。キリのたんすは軽くて、虫がつかないのが重宝します。そのそばに枯れ葉を入れた囲いがあり、掘り返したところ、カブトの幼虫が何匹か出てきました。観察してからそのまま土をかぶせて次に出発です。スダジイやツブラジイの林の中でキンランを探しました。このあたりで時間が残り少なくなってきたので、予定ではナンジャモンジャの木を見に行く予定でしたが、予定を変更して岩本橋に向かいました。

ヌマスギのぼこぼこした膝根やその反対側のトウカイコモウセンやハルリンドウの湿地特有の植物を観察しながら帰路につきました。途中北門に向かう近道のところで解散し、私たちは展示館に戻って簡単な反省会をしました。天気もよく、一般の参加者もあり、今回のふるさと親子自然観察会は盛況だったと思います。

気分よく展示館前のメタセコイアの実を袋いっぱい拾って帰りました。指導員のみなさま、ご苦労様でした。

スッタフとして参加して

ふるさと親子自然観察会

名古屋支部 櫻井玲子

テーマ：樹木博士に挑戦

期 日：6月10日（日）午前10:00～12:00

天 気：雨のち晴れ

場 所：鶴舞公園

参加者：4名（親子2名2組）

スタッフ：浅井、石原、櫻井、滝田、田中、
中西、長谷川（安）、長谷川（と）
中野（エコパルなごや）



▲雨にも負けず・・・「樹木博士にチャレンジ」

当日の朝の天気予報では東三河では大雨洪水警報が発令され、名古屋では「激しい雨が降り、雷も・・・」とのことでした。今日の観察会はできるのかな？と心配しながら8時30分に集合場所の鶴舞グリーンプラザへ出向きました。やはり、大粒の雨が降っていました。観察会開催時には雨が小止みになる事を期待して、スタッフ4人で樹木に吊り下げる番号札の準備に取り掛かり、雨が降り続くなかを樹木に番号を付けていきました。服装もかなり濡れた状態で集合場所に戻ると、「参加者の方が来ておられます」との言葉にみんなほっとしました。準備をした甲斐がありました。

参加者は4人（小2男子と母親、小6女子と父親）。挨拶の後、10時過ぎに樹木観察に出発しました。最初は『単葉・複葉』『常緑・落葉』など樹木の基本的な説明から入り、No.1から木の観察をしてまわりました。葉、葉脈、実、花、幹、匂い、用途などの特徴と一緒に調べたり伝えたりして、前もって配布していた図鑑と照らし合わせながら「この木は何という木か」を考えてもらいました。

参加者が樹木に聴診器をあてられたので、私たちも一緒に聞かせてもらいました。かなり大きな音がしていました。

葉をよく見るために枝を低く引っ張ると雨の雫がザーッと落ちてきたり、答えを記入するのに濡れない工夫をしたりかなり大変でした。途中からは空も明るくなり、後半は傘を閉じて歩くことができました。

最後にグリーンプラザの休憩室で、観察した18種類のうち採取できた17種類の葉をテーブルに並べ、皆さんで確認しながら答え合わせをしました。

参加者の一人が「雨が降ってもやるのは普通です」と言われ、驚いたり感心したりしました。その方は「ボーイスカウト」に関わっている方でした。

樹木の学習のみならず、指導員として天気に応じた準備や進行法など沢山のことが勉強できました。

知多支部 春の研修旅行

初夏の西三河の自然を訪ねて：西三河支部との交流会

知多支部 小川 展弘

今回の知多支部春季研修旅行は、6/2(土)～3(日)に岡崎平野の西尾いきものふれあいの里、岡崎・北山湿地、岡崎・茅原沢自然環境保全地域、寺野の大楠・薬師堂、六所山観察登山、トヨタの森、琴平ふくろう谷等、盛り沢山の自然観察をしました。

西三河は、私たちの住む尾張地域が高温多湿の夏や伊吹おろしの冬など寒暖の激しい気候とは対照的で温暖な気候風土です。

参加者は子供さん達も含め20名、幸い天候にも恵まれ西三河支部はじめトヨタの森ネイチャークラブ会員や訪問先の各施設のスタッフの方々の熱のこもったリードで素晴らしい観察会を展開することが出来、誠に有意義な2日間の研修旅行でした。

《6月2日…西尾いきものふれあいの里～岡崎北山湿地～岡崎茅原沢自然観察環境保全地域～寺野の大楠・薬師堂～宿泊地・腰掛山荘～川遊び～灯火採集など》

- ①西尾いきものふれあいの里：到着すると木立の中にこぢんまりとしたネイチャーセンターが佇み、スタッフの尾崎、山田さんご両人に迎えられました。総面積22.4haの東部丘陵地の小草池を中心とするセンターゾーンと万燈山を中心とするサブゾーンに分けられ豊かな里山の自然に触れ合いながら自然観察、自然体験の場として平成11年5月にオープンしました。お赤飯の元祖、縄文古代赤米の苗植え体験の水田、柿畑や空洞の無いハセドウリの育成棚等を案内頂き、ある程度消費する二次的資源も目指しているとの説明を受けました。一周して木々の緑がその濃淡を鮮やかに映している小草池に別れを告げ、次の観察地へと向かいました。



西尾いきものふれあいの里

- ②岡崎・北山湿地：湿地駐車場の近くでゆっくり昼食を摂り、観察スタート。ヒノキ主体の森で環境省の「日本の重要湿地500」に選定され動植物の貴重種が生息する湿地として保存されています。岡崎市の中南部に位置し標高170～190mの低い屋根の谷間にある湿地で、幾筋もの小流が流れ出し各所で停滞するため大小10数個の湿地が出現、ミズゴケ類を主体とする湿地群で昆虫類ではハッチョウトンボ、ヒメタイコウチも見られホトケドジョウやタゴガエル等も観察できました。



岡崎・北山湿地

- ③岡崎・茅原沢自然環境保全地域：西三河支部の三田 孝、吉田さんと合流、ご案内頂きました。当地域は、岡崎市東部の乙川(オカワ)と男川(いずれも矢作川の支流)の合流地点にある樹林地域で、この内14.4haを自然環境保全地域として指定されています。かつ標高40mの川岸から同110mを前後する山稜との間に広がる、アラカシを主とした常緑広葉樹とコナラ等の落葉広葉樹との混合天然林となっていました。低地にありながらヒメシャラなど落葉広葉樹が頻度高く出現、県内でも稀な地域とのこと。入口正面に鎮座する岡崎市指定の文化財・茅原沢神明社を皆で参拝しました。

- ④岡崎・夏山町寺野の大楠と薬師寺：樹齢約640年、幹囲12m、根廻り27m、樹高36m、一同唖然と見取れていました。とにかく立派の一言です。昭和43（'68）年11月県天然記念物に指定され、大きさは県内3番目とか。根元に立つと自ら靈感を覚えるようでした。本日の宿・腰掛山荘に向かいイトンボの舞う巴川上流・腰掛川に佇む山荘に到着、早速、溪流で生き物たちと遊びました。

水棲昆虫の観察→



《6月3日…六所山観察登山～トヨタの森～ふくろう谷・ビオトープ～帰路》

- ⑤六所山観察登山：六所山（606m）の取っ付き点駐車場に到着。西斜面の自然体験キャンプ場を後方に巻いて観察登山スタート。直ぐに胴径5cm はある山の神・アオダイショウと対面、暫くはヒノキの植林道を300m ほど進めば「合流点まで900m」の案内標識。ホトギスの鳴き音を聴きながら一汗かく頃頂上直下の六所山神社を右に巻いて直ぐ頂上到着。一服して下山、登り1時間40分下り40分の観察/軽登山でした。
- ⑥トヨタの森：ネイチャー・ゲームの会、白顎鬚のヤギさんこと原田秋男さんのご案内で里山保全のための整備・活用ゾーンなどを観察・学習しました。昔の日本の里山をひとつのモデルに平成7年から持続性のあるモデル林の整備に着手、内15haをトヨタの森として同9年にオープン。自然生態観察園などを整備してきました。また地域の皆さん、特に次世代を担う子供さん方をターゲットに森の土を使って粘土遊びや薪割りや竈でご飯炊きなど四季を通して盛り沢山のイベントを企画・実行されています。また、エコモニタリングと称してシデコブシ200個体の保護やフクロウの谷づくり等も行っていました。観察を終え戻る際、森を裏側から見ると少ない植生の中、松林とその眼下に広がる風情が一昔前ののどかな里山風に映りました
- ⑦琴平ふくろう谷：同会の前田副会長さんにご案内頂きました。7年程前に東海環状高速道の工事に伴い、ふくろうの棲息地をコンクリート壁で斜面化する計画が打出され道路公団との数次に亘る交渉の結果、ふくろう谷、ビオトープの再・創生となった由。特にふくろう谷の自然環境保全のために尽力され現在でも営巣木や餌場の保全活動を展開中です。また、工事で露出した水脈を活用したビオトープにカルガモの番が棲みつき安息な日々を送る微笑ましい姿も見られました。

《エピローグにかえて》

木曽山脈の南端に源流を発する矢作川は愛知県を南流、三河湾に注ぎ、その下流では多量の土砂を流出、県内第3位の広さの西三河平野、即ち岡崎平野を形成しています。地質的には約2億年前の中生代～新生代にできた花こう岩（北部）や中生代に変化を生じた領家変成岩（南部）が主体です。

今回の研修観察会で次世代を担う子供さん方をターゲットにイベントを盛り沢山展開されていた”西尾いきものふれあいの里”や”トヨタの森”などを実地に見て大変感動いたしました。惜しみない賛辞をお送りする次第です。

末筆ながら、私達の知多支部交流研修会に対しご多忙中にも拘わりませずご親切にかつご丁寧にご案内賜りましたこと大変有難く、感謝の念にたえません。ここに本紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



加子母ヒノキに会いに行く

名古屋支部 長谷川 安子

■裏木曽へ

去る6月2日、中部森林管理局主催「森林ふれあい講座」で裏木曽ヒノキ林の散策に参加しました。

私は子ども時代の一時期、裏木曽の加子母村で過ごし、山にまつわる話を良く聞かされました。

今の国有林は戦前、御料林（天皇の山）と呼ばれ、住民には手の届かない遠い山でした。江戸時代は「檜一本、首ひとつ」といわれ明治政府になってからも「禁木（ヒノキ・サワラ・アスナロ・コウヤマキ・ネズコの五木）のあるところは、官木のあるところだ」との理由のもとに、それらの土地を合わせすべて官有地と心得よ」とする指令によって、厳重に取り締まれ、御料林が収益をあげた影で住民との間に数多くのトラブルを生んだといわれています。

■鍵のかかったゲート

名古屋からマイクロバスで現地の林道へ。ガイドがないので、思考も眺めるのも自分流で気分は爽快。林道の片側は谷、もう一方は急斜面、見渡す限り樹木に覆われています。やがて国有林入口に着き、ゲートの鍵が開けられて国有林へと入りましたが、こんな山中で鍵のかかったゲートがあることに驚きました。まもなく「木曽ヒノキ備林」に入り、伊勢神宮式年遷宮伐採跡、名古屋城本丸御殿伐採跡の説明を受け、「三ッ緒伐り」と呼ばれる古来の伐採法で伐った跡を見ました。ここは伐倒方向の立ち木すべて伐られて



▲三ッ緒伐りにされたヒノキの伐採跡



▲樹齢 560 年の合体木

空間が広がっていました。開かれた空間には、光の力で種子が一斉に発芽、実生のヒノキの稚樹が石の多い斜面でがんばっていました。林道を少し下ったところに推定 560 年といわれるヒノキとサワラの合体木があり、密着成長して年輪がひとつになったものだそうです。

■碧みどりの水底

最後に「高樺の滝」へ向かう途中、ミズナラ、サワグルミ、キハダ、ミズキなどの大木や、滝の近くにクマナギの赤い実が房状に下がっていました。滝一帯の水底は濃尾流紋岩になっているため、水が美しい碧みどりに見えて印象的でした。

自然のしくみ・その4

西三河支部

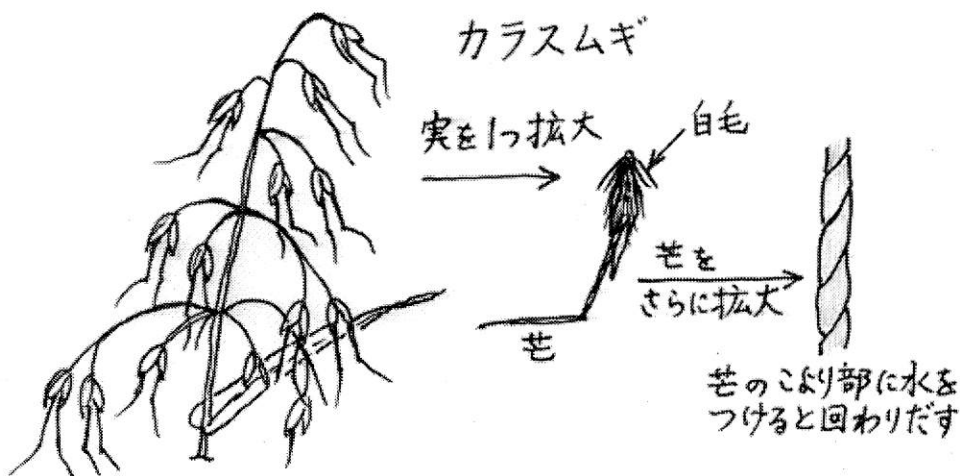
奥居達朗

この原稿を書いている6月上旬頃、田園地帯の道端の草むらやアスファルトの割れ目などで、熟れて淡緑色から茶色になりかかっているカラスムギを時々見かけます。この果実には、太く長い、硬い毛のようなものが付いています。これを芒（のぎ）といい、稲や麦にも付いているのでお馴染みのものですが、カラスムギの芒にはよく観ると変わった特徴があります。根元からおおよそ2分の1のところでカクンと折れ曲がっています。そして折れ点の根元側は黒っぽい色をしており、その部分をルーペで拡大してみると「こより」のように振れた筋が観られます。

この芒の黒っぽい部分に水滴を垂らして濡らし、折れ曲がった芒を観ていると面白いことが起こります。丁度時計の針が進むように回転するのです。2～3回転で動きは停まりますが、濡れた芒が乾燥してくると今度は逆回転でまた動きだします。何故そうなるのでしょうか？ 濡れることで「こより」のような振れがほどけて、カクンと折れ出がっているために芒の先が回転したのです。また、乾燥すると再び振れて「こより」状態に戻り、このとき逆回転するのです。濡れてほどけ、乾燥して戻る、まるで形状記憶合金です。昔の人は、この芒の動きを石臼を挽いて抹茶を造るのに見立てたので、別名チャヒキグサといいます。ざらざらした台や、つるつるした台の上でカラスムギの果実を濡らしたり乾燥させたりすると、コテン、コテンと、何かダンスをしているようにも見えます。

この仕掛けは何の為にあるのでしょうか？ この果実は成熟すると脱落し、土の上では風に吹かれて動き、夜露や雨に濡れてコテン、コテンと動き、乾燥してまたコテン、コテンと動いている内に、土の割れ目やアスファルトの割れ目にこの果実が入り込み、そこで発芽すると考えられています。濡れてその動きで割れ目に入り込んでも、次に乾燥したら逆回転して割れ目から出てしまうのではないかと心配になりますが、カラスムギの果実には少し剛めの白い毛があり根元から先のほう（芒の伸びている方向）に向かつて末広がりには生えています。エノコログサ（ネコジヤラシ）の花穂が手の中で一定方向へ動くように、この白毛のお陰で一度入り込むと割れ目から抜け出すことはないのです。さらに芒が風に揺れたり、濡れたり、乾燥したりして回転すると白毛のおかげでどんどん割れ目の中へ潜り込んで行き、さらに発芽に良い条件になるようです。

同じように折れ曲がった芒を持つものにススキがあります。この果実は小さいのでカラスムギほど観やすくはありませんが、同じ現象が観られます。そのほかにも同じようなものがあると思います。見つけられたら私にも教えてください。



尾張本宮山・ヒトツバタゴ自生地

尾張支部 長谷川洋二

5月になると犬山市の入鹿池の近くで、本宮山(283m)の新緑を背景に、真っ白な雪をかぶったような木を見ることができます。ヒトツバタゴです。ヒトツバタゴは、国の天然記念物で、犬山市は全国に5カ所ある自生地のひとつです。雪のように見えたのは花です。この植物は「なんじゃもんじゃ」とも呼ばれています。タゴの仲間で、他のタゴの種類が複葉であるのに対し、この木だけは単葉であるためヒトツバタゴという名前がつけました。ヒトツバタゴは日本では、犬山市、岐阜県東濃地方、長野県の一部そして長崎県対馬の北端に自生しています。ヒトツバタゴはこのように遠くの地域に離れて自生していますが、なぜ限られた地域だけに自生しているのかはわかっていません。ヒトツバタゴが犬山市の本宮山のふもとに自生しているということは、この地域の自然の歴史の流れを解く鍵になると考えることができます。

ヒトツバタゴの木の下を見ると白い花が見えます。カザグルマです。つる植物で、近年減少していましたが、地元の人々の努力で50くらいを数えるまでになっています。

ヒトツバタゴの自生地の上には、西洞池と西洞上池の二つの池があります。西洞池には、マメナシの木があります。今年は花を咲かせませんでした。マメナシも日本では長野、愛知、三重県だけに生育している植物です。愛知では、尾張部の丘陵地に生育していましたが、開発により減少してきています。また、この池では未(ひつじ)の頃に花が咲くヒツジグサを見ることができます。

二つ池の間を通り抜け、コナラ、アベマキの明るい新緑の雑木林の中へ入っていきます。初夏なら、南からわたってきた夏鳥の声を聴くことができます。新緑の中を轉りながら枝から枝へ飛び回るキビタキの美しい姿を見ることができます。林床には、ギフチョウの食草のカンアオイを見ることができます。ちょっと急な坂を登り、尾張信貴山、大県神社への道と分かれ、さらに急な道を登ると本宮山の頂上につきます。本宮山の頂上からは、黄色いツブラジイの花やホウノキの白い大きな花を見ることができます。

頂上からは、森の中を歩いているだけでは見えない、違う森の姿を見ることができます。登ってきた方角を見ると、新緑の木々が沢伝いにヒトツバタゴがある場所へ下っていくのが見えます。濃い緑色は常緑樹や人工林で、森全体と森の置かれた回りの環境を見ることができます。

本宮山には特有の植物が多く、尾張の博物学者たちが注目してきた山です。この地域特有の環境が長い期間に渡って維持されてきたことで、ヒトツバタゴやマメナシなどが自生してきました。

ヒトツバタゴは、本宮山の豊かな自然とヒトツバタゴを愛している人々の努力によって、今年も写真のように雪のような花を咲かせています。



▲雪を被ったように見えるヒトツバタゴの花



■会員情報について

みなさんの手持ちの名簿に、下記会員の連絡先を追加・訂正ください。

●新会員紹介 ～活躍を期待します～

板倉隆彦さん（知多支部）

〒487-0035 大府市共和町5-222

一井好央さん（尾張支部）

〒474-0061 春日井市藤山台5-13-8

紀藤昌仁さん（尾張支部）

〒484-0094 犬山市塔野地東屋敷10-2

吉川勉さん（知多支部）

〒478-0035 知多市大草四方田 16-8

■連絡先などの変更は早めに

転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更は、速やかに事務局までご連絡ください。現在利用のメール便は、移転先への転送が不可能です。くれぐれもご注意ください。

■＝会費納入について＝

平成 19 年度の会費納入手続きは完了しましたでしょうか。もし、うっかりしていたという方は、至急振込みをお願いします。詳細不明の方は、支部または協議会事務局に問合せてください。

■理事会開催案内

本年第 2 回目の理事会は下記の通り開催されますので、理事の方は万障繰り合わせて出席ください。

日時：8 月 4 日 pm1:30～

場所：愛知県勤労会館 つるまいプラザ

内容：理事候補・改選理事数等、

総会講演会講師リストアップ 他

■編集部スタッフ紹介

～よろしくお願いいたします～

「協議会ニュース」校正担当に、あらたに 1 名のスタッフが加わっていただきました。

●岡田 雅子さん（名古屋支部）

校正を引き受けていただきました。丹念にチェックしていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

■オオキンケイギク調査について

＝調査報告締切 8 月末日＝

緑の景色に鮮やかな黄金色の花、大抵は話題のオオキンケイギクのようなようです。道路沿いや空き地などで何株かを見かけますが、時には大群落をなしていることもありますね。

協議会の本年の調査テーマは、このオオキンケイギクです。本誌 3 月号にオオキンケイギクについての情報提供の折り込み(4 ページ)を同封していますが、目を通されましたか。最終ページの調査報告用紙に記入の上、8 月末日までに調査担当理事まで送付願います。尚、下記の当会 HP に調査表がアップされていますので、こちらも活用ください。

◆愛知県自然観察指導員連絡協議会 HP

<http://www.naichi.net/>

■ML【自然観察】に登録を！

愛知県自然観察指導員連絡協議会では、会員の齋竹善行さんがメーリングリスト[自然観察]を立ち上げ、みなさんの情報交換の場を提供していただいています。

生物暦を中心に、自然についてのさまざまな情報提供・話題提供がされています。まだ登録をされていない会員は、是非齋竹さんの下記アドレスに連絡ください。

BZA03620@nifty.ne.jp

尚、この ML は協議会の活性化を目的に、齋竹さんが自主的に管理・運営されているものです。マナーを守って参加ください。

◇◇◇ 研修会のご案内 ◇◇◇

■ 研修会「夏鳥」

日時：6月30日（土）9時から12時

集合場所：海上の森センター駐車場

講師：佐々木和治氏（元日本野鳥の会 愛知県支部長）

内容：野鳥の種類と活動する環境、子育てできる環境とは、野鳥観察で守りたいこと

■ 研修会「鳴く虫」

日時：8月25日（土）19時から21時半

集合場所：海上駐車場（旧銭屋鉱産あと）

講師：水野利彦氏（県環境審議会専門調査員）

内容：鳴く虫を聞く、聞こえる場所や鳴き方

■ 研修会「(テーマ未定)」

日時：10月未定日（日）9時から12時

集合場所：未定

講師：岡田正哉氏（昆虫研究会名古屋代表）

著書 「昆虫ハンターカマキリのすべて」「ナナフシのすべて」

編集部から

□協議会ニュースは会員の皆さんにさまざまな情報をお届けする媒体です。内容についてご意見・ご要望をお聞かせください。

□会員の自発的な情報発信のための「会員のページ」などを設けていますので、積極的な投稿を歓迎します。

□支部の行事結果なども協議会ニュースでご紹介ください。

□お寄せいただいた原稿は、紙面の都合で内容を変えないよう配慮して、若干の加筆・修正することがありますので、ご了承ください。

□協議会ニュースの編集作業や発送をお手伝いして下さる方を募集しています。

編集スタッフ

岩沙 雅代 岡田 雅子
近藤 記巳子 齋竹 善行
永田 孝 横井 邦子
吉田 孝三

協議会ニュース編集部

〒482-0007 岩倉市大山寺元町 12-3

齋竹 善行

TEL 0587-37-7616

E-mail BZA03620@nifty.ne.jp

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市中南区鳥栖 2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460